

— 明治安田生命 「家計」に関するアンケート調査を実施 —
約9割が物価高の影響を危惧！最も影響を感じる費用は「食費」！
貯蓄額増加の影響か！？夫のおこづかいが3年ぶりの増加！
脱“巣ごもりGW”の兆しあり！？GWの予算は去年の1.4倍に！

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、「家計」に関するアンケート調査を実施しましたのでご報告します。

1. 物価高による家計への影響について（詳細は5ページ参照）

■約9割が物価高の影響を危惧！最も影響を感じる費用は「食費」！

- ・物価高の影響を感じると回答した人は51.5%、今後影響があると回答した人は36.2%と、合わせて約9割（87.7%）の人が物価高による家計への影響を実感！
- ・最も影響を感じる費用は「食費」（43.2%）で、次いで「ガソリン代」（30.6%）、「光熱費・水道代」（23.2%）という結果に！

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が
物価高による家計への影響について分析！

2. 収入について（詳細は6～7ページ参照）

■約3割が昨年より収入減！パート・アルバイトの人は出勤日数減少が大影響！

- ・昨年より年収が減ったと回答した人は、28.7%と約3割！
- ・年収が減った理由を見ると、トップは「企業業績等で給料が減ったため」（36.3%）で、次いで「出社数が減ったため」（19.6%）、「残業代が減ったため」（16.6%）という結果に！
- ・職業別で見ると、年収が減ったと回答した割合は「パート・アルバイト」の人が最も多く（34.2%）、理由のトップは「出勤日数が減ったため」（50.0%）

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が
収入について分析！

3. 貯蓄とおこづかいについて（詳細は8～10ページ参照）

■貯蓄額は2年ぶりの増加！貯蓄方法の割合は「銀行預金」が約7割！一方で投資へのハードルはまだ高い！？

- ・世帯の貯蓄額は1,408万円となり、去年の1,339万円から2年ぶりに増加！
- ・貯蓄方法の割合は「銀行預金」が72.6%と高い一方で、投資が占める割合は16.8%と、投資へのハードルはまだ高い結果に！？

■夫のおこづかいは3年ぶりの増加！しかし、コロナ禍前の金額には届かず我慢は続く！？

- ・夫のおこづかいは33,435円（前年+1,374円）と、3年ぶり増加！
- ・しかし、コロナ禍前の金額（37,774円）には届かず、引き続き我慢は続く結果に！

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が
貯蓄とおこづかいについて分析！

4. GWについて（詳細は11～12ページ参照）

■脱“巣ごもりGW”の兆しあり！？GWの予算は去年の1.4倍に！

- ・今年のGWの過ごし方は、昨年に引き続き、「自宅で過ごす」（56.0%）がトップという結果になったものの、「国内旅行」と回答した人は、11.2%と去年の2倍以上に！
- ・加えて、GWの予算は、29,544円と去年の1.4倍に！まん延防止等重点措置の解除等の影響もあり、脱“巣ごもりGW”の兆しか！？

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が
今年のGWについて分析！

5. TOPICS（詳細は13～14ページ参照）

(1)「ポイ活」（キャッシュレス決済等を活用して効率よくポイントを貯める活動）について

■ポイ活をしている人は約7割！貯めているポイントは男性の方が多結果に！

- ・ポイ活をしている人は約7割（66.6%）という結果に！
- ・ポイ活をしている人の、貯めている月平均ポイントは2,485ポイント！男女別で見ると、男性（2,833ポイント）の方が女性（2,153ポイント）より多い結果に！
- ・理由のトップは「おこづかい稼ぎのため」（66.7%）！次いで、「節約のため」（48.8%）という結果に！

(2) 老後の不安について

■約8割の人が老後に経済的な不安あり！不安が解消される貯蓄額は3,951万円！

- ・老後の生活に経済的な不安を感じると回答した人は79.8%と、約8割の人が不安を感じている結果に！
- ・不安が解消される世帯貯蓄額は平均で3,951万円！年代別で見ると、30代が最も多い結果に！

対象者の属性

1. 調査対象

20～79歳の既婚男女

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2022年3月23日(水)～3月29日(火)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1,620人

6. 回答者の内訳

(単位：人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	135	135	135	135	135	135	810
女性	135	135	135	135	135	135	810
計	270	270	270	270	270	270	1,620

【 目 次 】

<u>1. 物価高による家計への影響について</u>	…… 5 ページ
<u>2. 収入について</u>	…… 6 ～ 7 ページ
<u>3. 貯蓄とおこづかいについて</u>	…… 8 ～ 10 ページ
(1) 貯蓄について	…… 8 ～ 9 ページ
(2) おこづかいについて	…… 10 ページ
<u>4. GWについて</u>	…… 11 ～ 12 ページ
<u>5. TOPICS</u>	…… 13 ～ 14 ページ
(1) 「ポイ活」について	…… 13 ページ
(2) 老後の不安について	…… 14 ページ

1. 物価高による家計への影響について

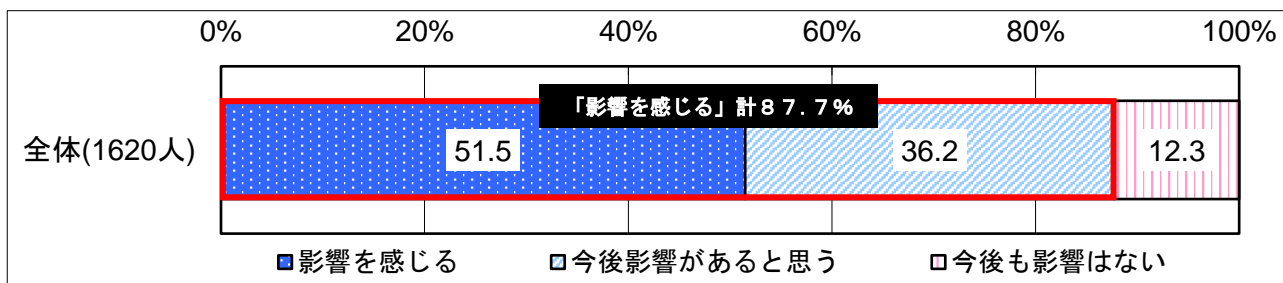
約9割が物価高の影響を危惧！最も影響を感じる費用は「食費」！

○現在の物価高による家計への影響について聞いたところ、「影響を感じる」と回答した人は51.5%、「今後影響がある」と回答した人は36.2%と、合わせて約9割（87.7%）の人が物価高による家計への影響を危惧していました。

○さらに、「影響を感じる」または「今後影響がある」と回答した人に、最も物価高の影響を感じる（もしくは今後影響があると思う）費用を聞くと、トップは「食費」（43.2%）で、次いで「ガソリン代」（30.6%）、「光熱費・水道代」（23.2%）という結果となりました。

○資源価格の高騰を要因とした、食料品の値上げ等が、多くの家計に影響を与えているようです。

Q. 物価高による家計への影響を感じていますか



Q. 最も物価高の影響を感じる（もしくは今後影響があると思う）費用はどれですか （※「物価高の影響を感じている人」のみ回答）

回答者数	食費	ガソリン代	光熱費・水道代	被服代	日用品費	その他
1421人	43.2%	30.6%	23.2%	0.5%	1.8%	0.7%

～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



約9割の人が物価高の影響を感じるという結果は当然と言えるでしょう。すでに、身の回り品の価格が幅広く上昇しています。特に上がっているのがエネルギー関連で、総務省から発表されている2月の消費者物価指数を見ると、ガソリンが前年同月比で22.2%、灯油が33.5%、電気代が19.7%それぞれ上昇しています。

支出に占める割合が大きいため、「食費」を気にする家計が最も多いのうなずけます。年明け以降、すでにパンやチーズ、パスタ、牛肉、食用油、味噌などの値上がりが続いています。

エネルギー価格については、ウクライナ情勢次第で下落の可能性もありますが、今後じわじわ出てくるのが円安の影響です。身の回り品からブランド物まで、影響は多岐にわたります。また、4月に約17%上がった小麦の政府売渡価格は、次回10月も上がる可能性が濃厚です。物価高は少なくともあと1年程度は続く可能性が高く、賢い家計防衛策が必要になりそうです。

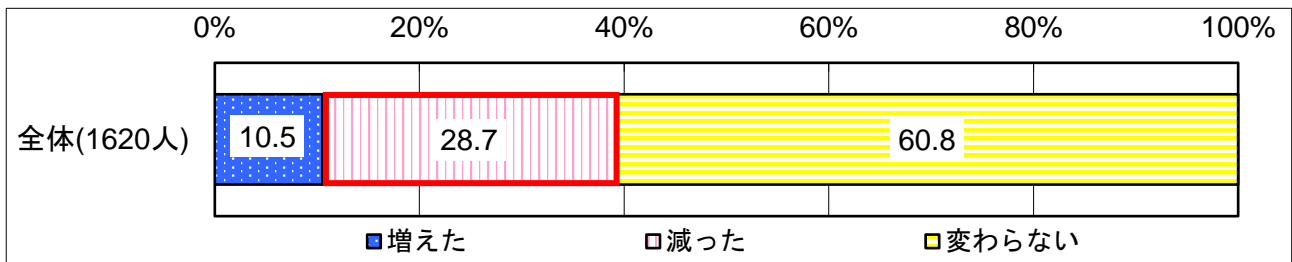
2. 収入について

約3割が昨年より収入減！パート・アルバイトの人は出勤日数減少が大影響！

- 昨年同時期と比較した年収の変化について聞いたところ、昨年より「減った」と回答した人は約3割（28.7%）で、「増えた」と回答した人（10.5%）の約3倍の結果となりました。
- さらに、年収が「減った」と回答した人に理由を聞くと、トップは「企業業績等で給料が減ったため」（36.3%）で、次いで「出勤日数が減ったため」（19.6%）、「（在宅勤務等により）残業代が減ったため」（16.6%）という結果でした。
- また、職業別で見ると、年収が「減った」と回答した割合は「パート・アルバイト」（34.2%）が最も高く、理由のトップは「出勤日数が減ったため」（50.0%）でした。
- コロナ禍による時短営業等の影響が、パート・アルバイトの人の収入に大きな影響を与えているようです。

Q. 昨年同時期と比較して、年収に増減はありますか

【全体】



【職業別】

	増えた (%)	減った (%)	変わらない (%)
会社員	15.9	27.7	56.3
会社役員・経営者	3.2	19.4	77.4
公務員	21.0	16.1	62.9
自営業・自由業	9.8	32.6	57.6
パート・アルバイト	6.4	34.2	59.4
専業主婦(主夫)	7.5	28.6	63.9

Q. 年収が減った理由を教えてください

	企業業績等で給料が下がったため	出勤日数が減ったため	残業代が減ったため	退職・失業したため	年金が減ったため	転職したため	投資に失敗したため	その他
全体	36.3%	19.6%	16.6%	12.5%	10.3%	6.0%	2.4%	8.6%
パート・アルバイト	28.1%	50.0%	6.3%	12.5%	1.6%	4.7%	1.6%	9.4%

～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



コロナ禍では、宿泊、飲食をはじめとする対面サービス産業が大きな打撃を受けました。総務省の労働力調査によれば、コロナ禍直前の2019年には、非正規職員・従業員の1割強が宿泊業・飲食サービス業で働いていました。しかし、長期にわたる営業制限を余儀なくされるなか、2年間で当該産業の非正規雇用は13.5%減少しました。

また、厚生労働省の毎月勤労統計調査によれば、2021年（年平均）の「パートタイム」の月間出勤日数（5人以上事業所、調査産業計）は、コロナ前の2019年との比較で3.4%、総実労働時間数は5.2%減少しました。宿泊業・飲食サービス業に限れば、それぞれ7.0%、13.0%大幅に減少しています。こうした結果が今回のアンケートに反映されています。

まん延防止等重点措置が3月21日にすべて解除され、しばらくは反動増的な個人消費の回復局面が予想されますが、一方で、新たな変異株の登場も続いています。対面サービス産業の雇用安定のためには、「Withコロナ」の経済運営方法の確立が必須と言えそうです。

3. 貯蓄とおこづかいについて

(1) 貯蓄について

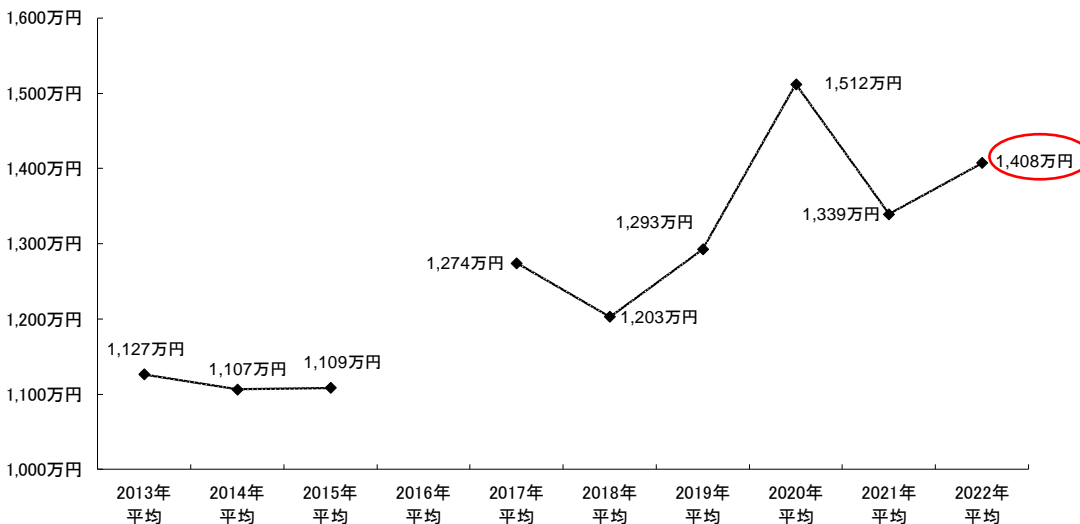
貯蓄額は2年ぶりの増加！
貯蓄方法の割合は「銀行預金」が約7割！投資へのハードルはまだ高い！？

○世帯の貯蓄額と貯蓄の目的について聞いたところ、今年の貯蓄額は1,408万円となり、昨年の1,339万円から69万円増加しました。昨年減少した貯蓄額が、2年ぶりの増加となりました。

○貯蓄の目的は、「いざという時のため」(61.5%)がトップとなり、次いで「将来のため」(61.2%)と続く結果となりました。新型コロナウイルス感染症の拡大等を起因とした、将来への不安等から貯蓄額は増加したのかもしれませんが。

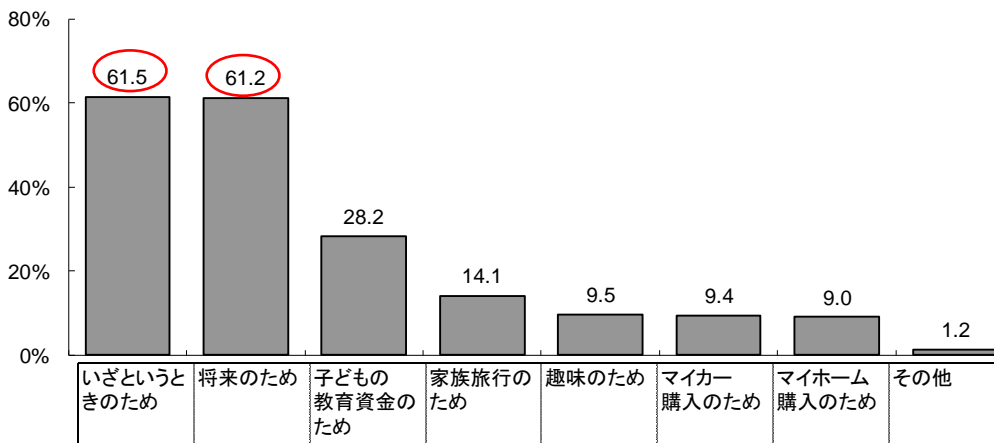
○また、貯蓄方法の割合について聞いてみると、「銀行預金」が72.6%と約7割を占め、株式投資や不動産投資をはじめとした、投資が占める割合は16.8%とかなり低い結果となりました。投資で貯蓄を増やすことへのハードルはまだ高いようです。

【貯蓄額（平均）の推移】



※2016年は調査なし。2015年以前は「いい夫婦の日」に関するアンケート調査、2017年以降は「家計」に関するアンケート調査より

Q. 貯蓄の目的は何ですか（複数回答）



Q. 貯蓄割合について教えてください

銀行預金	株式投資	投資信託	不動産投資	仮想通貨	貯蓄型保険	貯金(たんす貯金や500円玉貯金等)	その他
「投資割合」 16.8%							
72.6%	9.0%	6.6%	0.7%	0.5%	4.6%	3.8%	2.2%

～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



世帯貯蓄額は2年ぶりの増加となりました。そもそも、昨年の貯蓄額が減少したのは、大きく伸びた2020年の反動です。2020年に大きく伸びたのは、コロナ禍で外出機会が減ったのに加え、一人10万円の特別定額給付金が支給された影響と考えられます。こうした特殊要因を均せば、貯蓄額は増加傾向にあるように見えます。

一般論として、将来不安が増す局面では、家計は消費を控え、貯蓄額を増やす傾向があります。ただ、逆に言えば、家計は消費余力を有しているということでもあります。消費マインドが上向き展開が望まれます。

金利がほとんどつかないにもかかわらず、貯蓄方法で銀行口座が7割以上を占めるという現実、日本の家計に「投資」を根付かせることがいかに難しいかを示しています。政府は過去何十年にもわたり、「貯蓄から投資へ」の旗を振り続けていますが、国民性を反映している面もありそうです。投資対象商品の増加や小口化等、細かい工夫も必要と考えられます。

(2) おこづかいについて

夫のおこづかいは3年ぶりの増加！しかし、コロナ禍前の金額には届かず我慢は続く！？

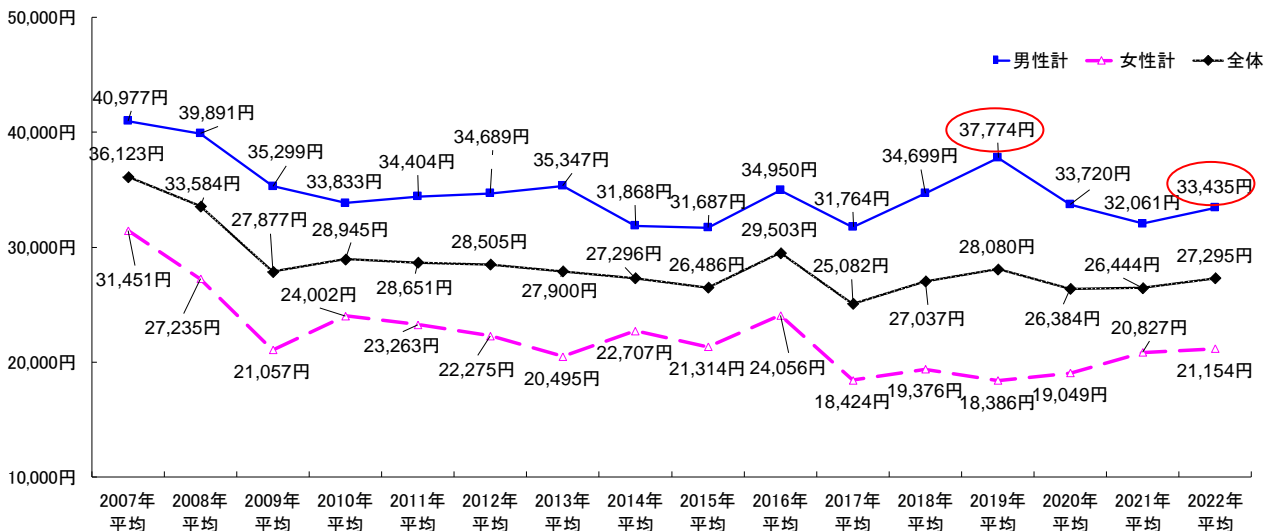
○夫婦のおこづかいの金額について聞いたところ、全体の月平均額は、27,295円と前年の26,444円から、増加(+851円)しました。

○夫婦別にみると、夫のおこづかいは33,435円(対前年+1,374円)と、3年ぶりに増加しました。しかし、コロナ禍前の調査である2019年の37,774円にはまだ、届かない結果となりました。

○夫のおこづかいが増加したものの、コロナ禍前の金額には届かず、我慢の日々は続くかもしれません。

Q. 1ヵ月のおこづかい金額はいくらですか (※20代～50代のみ回答)

【おこづかい金額の推移】



～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



微増とはいえ、夫のおこづかいが増えたのは朗報です。妻のおこづかいも上がっており、公平性という点でも好ましい結果です。ただ、コロナ禍前の水準にはまだ距離があるようです。

おこづかいの増加の背景には、給料の増加があると考えられます。昨年度の企業業績は、コロナ禍からの回復の過程で大きく改善しており、それを背景に、今年の春闘では、積極的に賃上げを打ち出す企業が増えています。平均賃上げ率は、2年ぶりの2%台を回復する見通しです。ボーナスも改善が見込まれており、場合によっては夏場におこづかいの追加が期待できるかもしれません。

来年度以降も安定的な増額を期待するためには、給料の安定的な上昇が必要になります。そのためには、企業の成長力をもっと高めていかなければなりません。日本企業の生産性が低迷するようになって久しく、新たな技術革新を促すような構造改革の推進が望まれます。

4. GWについて

脱“巣ごもりGW”の兆しあり！？GWの予算は昨年の1.4倍に！

○今年のGWの過ごし方について聞いたところ、昨年に引き続き、「自宅で過ごす」(56.0%)がトップという結果になったものの、「国内旅行」と回答した人が11.2%と、昨年の2倍以上となりました。

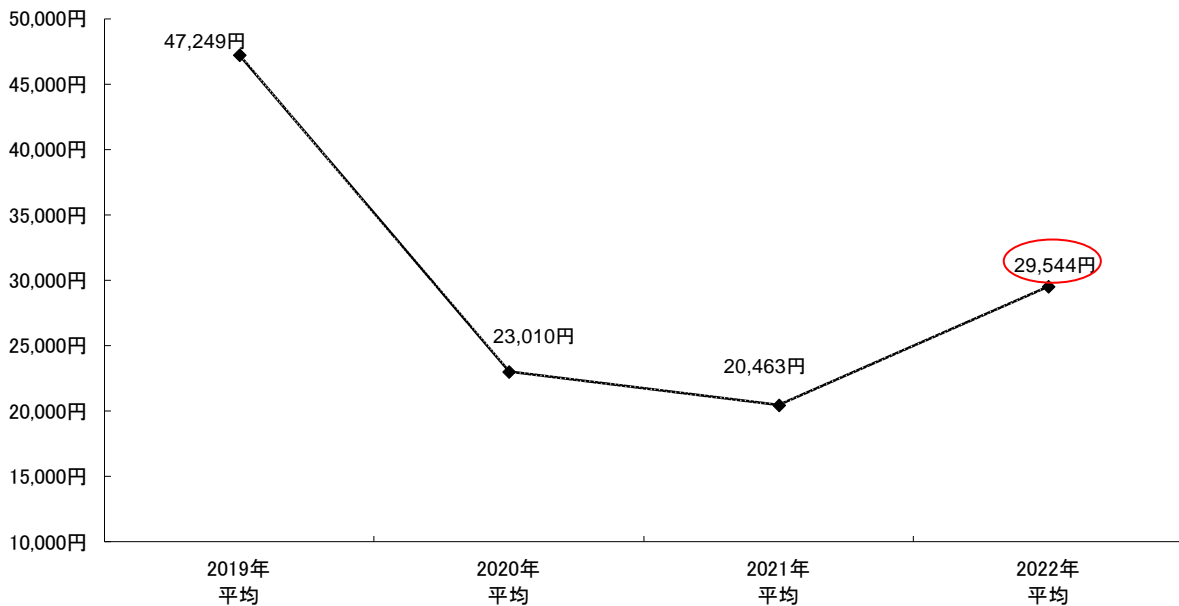
○GWの予算は、29,544円と昨年の20,463円から1.4倍に増加しました。

○コロナ禍の影響で、ここ数年は“巣ごもりGW”となっておりますが、まん延防止等重点措置の解除等の影響もあり、旅行する人が増え、脱“巣ごもりGW”に向かっているのかもしれない。

Q. 今年のGWはどのようにして過ごしますか

	自宅で過ごす	国内旅行	帰省	アウトドア	遊園地・テーマパーク	スポーツ観戦	海外旅行	ボランティア	その他	未定
2022年度	56.0	11.2	5.6	2.9	1.3	0.9	0.5	0.2	2.3	19.2
2021年度	64.1	4.9	4.6	2.3	1.0	0.4	0.4	0.1	2.0	20.1

Q. 今年のGWにいくらくらいお金を使う予定ですか



～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



GWの過ごし方で、国内旅行と答えた人が昨年から倍増、予算も1.4倍に拡大するという、日本経済にとって喜ばしい結果となりました。

まん延防止等重点措置の全面解除に加え、今年のGWは長期休暇が取りやすい日並びとなったことが追い風となっています。より遠方への旅行を企画する人が増えているようです。国内旅行会社各社は、前年比で軒並み6～7割の旅行客の増加を予想しています。

「旅行好き」にとって、コロナ禍の2年間は堪え難い2年間だったと思われます。Go To トラベルキャンペーンが再開されれば、鬱積していた旅行需要がさらに活発化する展開も期待できそうです。

一方、沖縄県では感染者数が高水準の状態が続いています。新たな変異株の登場が続いていることを考えれば、他の都道府県にとっても他人ごとではありません。再び緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発動に追い込まれることのないよう、医療体制の整備を継続することが重要です。

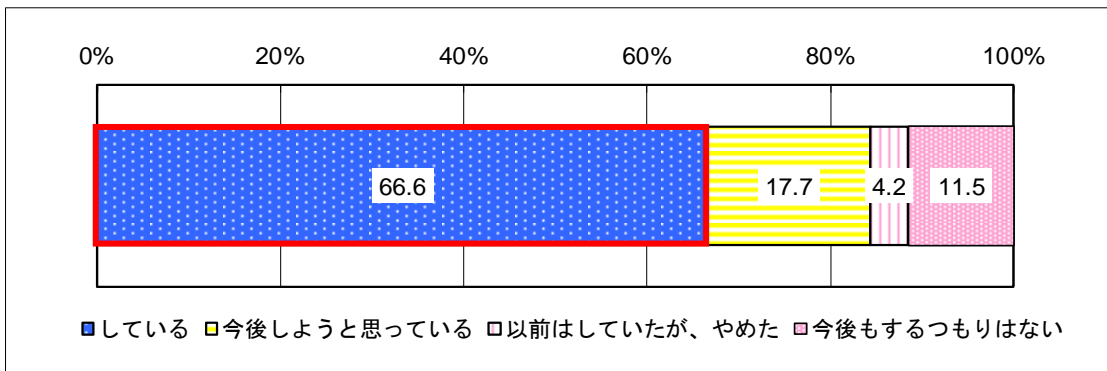
5. TOPICS

(1)「ポイ活」について

ポイ活をしている人は約7割！貯めているポイントは男性の方が多い結果に！

- ポイ活（キャッシュレス決済等を活用して効率よくポイントを貯める活動）をしているか聞いたところ、約7割（66.6%）の人がしていると回答しました。
- 月平均の貯めているポイントは2,485ポイントで、男女別にみると、男性は2,833ポイント、女性は2,153ポイントと、男性の方が多い結果となりました。
- ポイ活をしている理由のトップは「おこづかい稼ぎのため」（66.7%）で、次いで、「節約のため」（48.8%）となりました。
- コロナ禍による収入減少を補うためにポイ活をして、おこづかいの足しにしている人が多いのかもしれませんが。

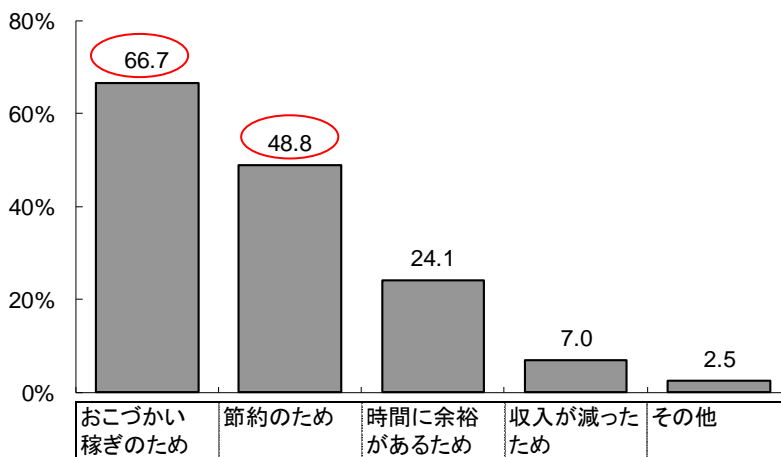
Q. ポイ活をしていますか



Q. 毎月どれくらいポイントを貯めていますか（※「ポイ活をしている」人のみ回答）

	ポイント数
全体平均	2,485
男性	2,833
女性	2,153

Q. ポイ活をしている理由は何ですか（複数回答）（※「ポイ活をしている」人のみ回答）



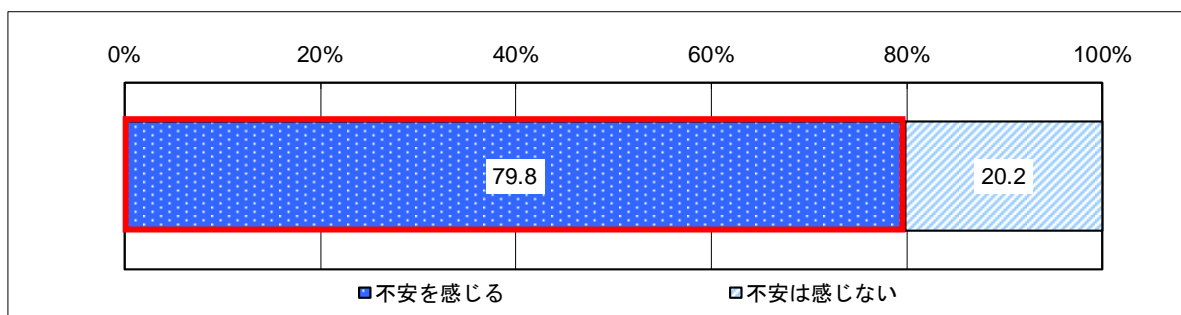
(2) 老後の不安について

約8割の人が老後に経済的な不安あり！不安が解消される貯蓄額は3,951万円！

○老後の生活に経済的な不安があるかを聞いたところ、「不安を感じる」と回答した人は79.8%と、約8割の人が不安を感じている結果となりました。

○また、「不安を感じる」と回答した人に、不安が解消される世帯貯蓄額について聞いたところ、平均で3,951万円となりました。また、年代別で見ると、30代が最も多い結果となりました。

Q. 老後の生活に経済的な不安は感じますか（※20代～50代のみ回答）



Q. 不安が解消される世帯貯蓄額はいくらですか

（※20代～50代の「老後に不安を感じる」人のみ回答）

	平均(万円)
全体	3,951
20代	3,482
30代	4,550
40代	3,813
50代	3,944